

令和 5 年 7 月 14 日

令和 5 年度における「日本遺産」の候補地域の認定審査及び 総括評価・継続審査の結果を発表します

- 「日本遺産審査・評価委員会」における審議を経て、令和 5 年度における「日本遺産」の候補地域の認定審査及び平成 29 年度に認定された「日本遺産」の総括評価・継続審査についての結果を発表します。

1. 令和 5 年度「候補地域」の認定について

- 「日本遺産」として認定する候補となり得る地域として 1 月に募集を行った「候補地域」については、1 件の申請がありましたが、「日本遺産審査・評価委員会」における審議を経て、令和 5 年度における「認定地域はなし」となりました。

2. 平成 29 年度に認定された「日本遺産」の総括評価・継続審査について

- 平成 29 年度に認定された「日本遺産」17 件について、同委員会における総括評価・継続審査を経て、15 件を認定継続とし、うち 2 件を他の地域のモデルとなる地域として「重点支援地域」に選定しました。

2 件については再審査を行うこととなりましたので、年内を目途に再審査結果を発表します。

詳しくは、以下の資料を参照願います。

別紙 1 令和 5 年度「日本遺産（Japan Heritage）」候補地域申請一覧及び結果

別紙 2－1 平成 29 年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果一覧

別紙 2－2 平成 29 年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果

＜担当＞ 文化庁参事官（文化拠点担当）
参事官 磯野
参事官補佐 高橋
係長 田村
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4909（直通）

令和5年度「日本遺産（Japan Heritage）」候補地域申請一覧及び結果

別紙 1

番号	都道府県名	申請者 （◎印は代表自治体）	ふりがな
			ストーリーのタイトル
1	鹿児島県	◎薩摩川内市、鹿屋市、霧島市、南さつま市	つくしのひむかのこうけい～かささのみやとじんだいさんさんりょう～しんわのたようせい
			筑紫の日向の神景～笠狭宮と神代三山陵～神話の多様性

※令和5年度「日本遺産（Japan Heritage）」候補地域は認定なし

	ストーリー 番号	都道府県名	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリー
重点 支 援 地 域	42	滋賀県、三重県	三重県(伊賀市)、滋賀県(◎甲賀市)	忍びの里 伊賀・甲賀 ーリアル忍者を求めてー
	51	高知県	奈半利町、田野町、◎安田町、北川村、馬路村	森林鉄道から日本一のゆずロードへ ーゆずが香り彩る南国土佐、中芸地域の景観と食文化ー
認定 地 域	39	北海道、青森県、秋田県、山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県	北海道、青森県、秋田県、山形県(◎酒田市)、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、香川県 (各道府県内49市町)	荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～
	40	山形県	鶴岡市	サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
	43	京都府	◎京都府(宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町)	300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊
	44	大阪府、奈良県	◎大阪府(大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町)、奈良県(葛城市、大和高田市、橿原市、桜井市、明日香村)	1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」 ～竹内街道・横大路(大道)～
	45	兵庫県	姫路市、福崎町、市川町、神河町、◎朝来市、養父市	播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
	46	和歌山県	◎和歌山県(和歌山市、海南市)	絶景の宝庫 和歌の浦
	47	和歌山県	湯浅町	「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅
	48	島根県	出雲市	日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～
	49	岡山県	倉敷市	一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～和と洋が織りなす繊維のまち～
	50	福井県、愛知県、滋賀県、兵庫県、岡山県	福井県(越前町)、愛知県(瀬戸市、常滑市)、滋賀県(甲賀市)、兵庫県(丹波篠山市)、岡山県(◎備前市)	きっと恋する六古窯 ー日本生まれ日本育ちのやきもの産地ー
	52	山口県、福岡県	山口県(下関市)、福岡県(◎北九州市)	関門“ノスタルジック”海峡 ～時の停車場、近代化の記憶～
	53	熊本県	山鹿市、玉名市、菊池市、◎和水町	米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～
	54	大分県	◎中津市、玖珠町	やばけい遊覧 ～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～
再 審 査	38	北海道	江差町	江差の五月は江戸にもない ーニシンの繁栄が息づく町ー
	41	埼玉県	行田市	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「住民意識アンケートの「まちに住みたい」と感じる住民割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「各市町における観光分野を主とした協力団体（企業等）数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 構成自治体を5つのブロックに分け、地域特性に応じて活動しやすくなる体制を構築するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 各自治体の行政計画への日本遺産の位置付けが一定程度あるとともに、マーケティング調査も行われるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサー等が一定程度存在するとともに、ガイド育成のための研修会に加え、地域のワークショップの実施など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 日本遺産に関連する施設や説明板・案内板の整備に加え、古民家を活用した宿泊施設等の整備や交通アクセスの整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 旅行商品の開発とともに、周遊ルートの調査やモデルルートの造成も進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中学生を対象とした学習体験、地元住民向け講習会の開催、地域の施設における企画展の実施など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 日本遺産のランディングページの設置や構成文化財のデータベースの構築など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画 総括評価

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 49自治体のシリアル型であることから、自治体間の温度差が課題であり、ブロック制の導入による事業内容の強化は評価できる。一方、協議会自らの主体的な活動の実施や、ブロック域内の状況把握・分析を行い、取り残される自治体がないよう、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ストーリー体験に向けて、サブストーリーを抽出・活用することは、シリアル型では有効であると言え、評価できる。体験型の旅行商品を造成する等の明確な方向性が示されており、団体向けのみならず個人向けの商品についても拡充されることが望ましい。 ■ 北前船によって発展したものと、地域の名産品を結びつけることによって、「ここにしかない魅力」を伝えるというビジョンとともに、ビジョン実現に向けた具体的な施策が描けており、評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ ブロック制の導入と事業計画に対するプレイヤーの棲み分けについて明確な体制が描かれており、評価できる。 ■ 構成自治体が多いことから、どのように取組の進捗状況について把握していくのか、ブロック間の取組に濃淡が出た場合にどのように対応するのか等について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 広範囲を対象としており、それぞれの地域を訪問した際に、他の地域を訪れてみたくなるような仕掛けや取組について、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ エリアが広範囲に及ぶため、エリア間の連携や、連携を活かした相乗効果の創出について具体的な取組がなされることが望ましい。 ■ 意欲的なシリアル型の計画であり、多くの関係者を巻き込んで実現に向けて取り組むことを期待したい。今後に向けてメリット・デメリットについて、一層の整理が望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前においても、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「住民意向調査の「地域の文化に愛着を感じる」割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体としては概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産への協力団体数や日本遺産に関連するふるさと納税が一定程度あり、組織のビジョンを全体で共有するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の概ね実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 継続的な構成文化財の調査やブランディングにおいて、地元・近隣エリアから認知度を高めていくという戦略の下で進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域の高校生と連携した取組が継続しており、実際に絹産業に触れる機会の創出や、ガイド育成に向けた基礎的な研修の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
(4) 整備	個別評価	可	■ 松ヶ岡開墾場の整備が計画的に進んでおり、関連の構成文化財とのネットワークづくり進んでいるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 地域の周遊を促進する施策の実施のほか、商品の企画からDMOが積極的に関わり旅行商品を作成するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 鶴岡中央高校シルクガールズの活動が10年以上続いているなど、高校生や大学生等の幅広い世代を巻き込んで、シルクの魅力を伝える工夫ができており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページの整備及びそれを活用した情報発信について、一定の活動がなされており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 綿密で具体的な計画が立てられている。DMOをはじめ、それぞれのプレイヤーの役割も明確であり、評価できる。 ■ 市民・来訪者・事業者のそれぞれの視点からビジョンを位置付ける点は良い。その上で、それらを「普及啓発」、「観光振興」、「人材育成体制強化」の3つの柱として位置付け、具体的な方策としての事業につなげていくという構成が望ましい。 ■ 明確な方向性が出ているものの、国内（地域内）を対象とした事業に傾斜しており、コロナ後を見据えたインバウンド向けの視点について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 構成文化財とストーリーが一体化した、一市の構成団体によるコンパクトで教育効果がある日本遺産として、国内の学校はもちろん、訪日リピーター・国際機関研修などをターゲットにした観光施策について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 松ヶ岡開墾場を核とした事業展開が評価できる。また、DMOと関連事業者による事業体制づくりと、個々の事業の具体化もよくできており、評価できる。 ■ 構成自治体のほか、DMO、商工会、金融機関、絹産業関連事業者、交通事業者等の民間事業者や文化財関係者などと連携する内容となっており、各主体の役割も明確になっていることから評価できる。 ■ 他の二つの日本遺産とコンセプト及び実際の連携がどこまでできているのかが不明であり、地域ブランド化について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 一定の体制づくりはできており、実行が求められる。また、2次交通支援事業は継続的な取組となるよう、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ これまでの取組の結果、高い満足度や長い滞在時間等の成果を生み出すとともに、地域の連携も促せている。より多くの来訪者を獲得するため、更なる工夫に期待したい。 ■ 他の日本遺産との連携も含め、地域内の相乗効果が発揮されることが期待できる計画であると評価できる。 ■ 経済効果を意識して、事業面での具体的な連携を図り、中心市街地も含めた「鶴岡」という地域のブランド化をどのように進めるかが課題である。また、訪日客に対して多言語によるわかりやすい解説整備を行うことが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「伊賀市・甲賀市における観光客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地元の歴史文化に誇りを感じるようになった市民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産伊賀甲賀忍者協議会の事業に協力した団体等の数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産サポーターが一定数いるほか、関係団体との連携協定を締結するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ マーケティング調査の実施によるターゲットの明確化や、両市での長期計画への位置付けなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤーであるガイドが一定数存在し、両市にまたがる案内が可能なガイドの養成講座やインバウンド対応研修の実施など、基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 大学との連携による古文書等の研究が進められているほか、コンテンツ整備に関する方針の下、独自の体験施設の整備を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ ガイド養成講座を通じたツアーの実施により、周遊エリアの拡大に取り組んでいるほか、構成文化財を活用したサイクリング事業を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小学校での忍者給食の提供や副読本の作成、三重大学との連携など、忍者文化を身近に感じてもらうために各種施策を工夫しながら行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 多言語でのウェブサイトの制作やSNSでの情報発信など、基礎的な取組が実施されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 伊賀市のPFI方式の施設整備の推進、甲賀市の忍者館の二次整備など、両自治体の上位計画に基づき、日本遺産を重要な施策と位置付け、意欲的に取り組むことが計画されている点は評価できる。 ■ 官民一体となった体験施設の整備や、マニュアル整備も含めた登録ガイド体制の構築、収益性のある体験型コンテンツの開発など、官民共創でストーリーを体感できるよう推進していく計画となっており、明確な方向性が示されている点が評価できる。 ■ 詳細なビジョンが示されており、忍者ブランドの更なる浸透に向けて具体的な施策が描けている点が評価できる。 ■ 地域の価値を向上させるためには更なる深掘りが必要であるものの、重点テーマが意識されており、方向性が明確である点は評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 行政による責任体制が明確化されており、協議会及びDMOをはじめとした関係者が連携した効果的な推進体制である点が評価できる。 ■ DMOをはじめとした観光関係者との連携、大学との連携協定、民間団体からなるプロジェクトチームと協働など、多様な団体が関わる実施体制となっている点が評価できる。 ■ 自立・自走に向けた方針について、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ PFI方式による忍者体験施設整備など、積極的な環境整備が計画されている点が評価できる。 ■ 民間事業者を交えたマネタイズに向けた取組が目指されており、ターゲットも明確化されている点が評価できる。 ■ 「忍者」というポテンシャルの高い素材を持っており、その歴史文化を起点とした観光に重点的に取り組み、地域経済効果を生み出そうという計画となっている点が評価できる。

評価結果	認定継続（重点支援地域）
------	--------------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前においても、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思う人の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 新型コロナウイルス感染症の影響といった、やむを得ない理由も確認されたものの、これらの理由が生じる以前も目標を達成していない等、全体として目標を達成していない。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 定期的な連絡調整会議やDMOとの情報共有、意見交換を実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 地域での各種計画への位置付け、マーケティング調査や満足度調査等が実施され、調査等を踏まえた既存計画・戦略の改定が見込まれており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 各地でガイド人材がストーリーを活かした取組を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 解説看板・案内看板の設置など基礎的な取組が行われているほか、丹後織物工業組合の精錬工場を拠点とした「TANGO OPEN VILLAGE構想」関連の整備が進められているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ DMO、民間事業者と協力したツアー商品の造成や地域一帯を周遊できるeバイク施策を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	不可	■ 民間主導のイベントなども開催されているものの、学習体験をした児童生徒数や地域住民のストーリーの理解度の実態について把握できておらず、普及啓発に係る土台の整備ができていない。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページ・SNS等の情報発信に係る基礎的な取組は行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 丹後ちりめんという魅力的な商品の特性を活かして、ターゲットをインバウンドや富裕層に絞った高品質・高付加価値な商品、コンテンツ開発が計画されており、進むべき方向が定まっている点が評価できる。 ■ 自治体からの負担金収入等が十分でなく、それぞれの取組内容を実現させるための事業予算確保に向けた更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ビジョンに掲げている丹後ちりめんブランドの強化や、その文化の継続・発展に日本遺産を活用するという計画はよいが、施策が現在の延長線に感じられ、ちりめんブランドと日本遺産ブランドの浸透に向けた施策の更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 丹後ちりめんの産業振興・観光収入を目的とした事業展開だけでなく、回廊である特色を活かした地域と連携した観光コンテンツの創出について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 個々の地域が主体となった活動や、民間事業者の活動の活性化が重要であり、大学等との連携強化を含め、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ DMOが中心となり、各構成自治体の観光協会を地域本部と位置付けるとともに、織物文化に関わる団体や観光事業者など、多様な団体を巻き込んだ組織体制となっている点が評価できる。 ■ 自治体間の連携が望まれるが、協議会である海の京都DMOの自主事業とともに、各自治体・事業者などが一体的に取り組む方向性が示されている点が評価できる。 ■ 組織内の役割分担が示されているものの、取組の進め方を協議する回数や方法について、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ ターゲットの明確化ができており、体験型観光の促進など具体的な取組の推進について期待したい。 ■ 「丹後ちりめん回廊」に訪れる魅力を、「海の京都ブランド」に負けないように発信する施策の更なる検討・具体化が望ましい。 ■ DMOの収益事業による財源確保や、地域全体を牽引する地域プロデューサー人材の確保、各構成自治体での事業創出や民間活動主体の創出について、更なる検討・具体化が望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「住民意識調査の「地域の文化に愛着を感じる」割合」及び「地域の小・中学生の日本遺産の認知度の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産に関する取組への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協議会内に各事業を実施する専門部会の設置や、DMO・観光協会等との連携など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	不可	■ 日本遺産の取組の将来的な目標・ビジョンにつながる指標とすべきであるほか、PDCAサイクルの仕組みができておらず、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができていない。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 観光ボランティア数、協力団体数、ワークショップの開催数が一定数存在するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 地図パネルの設置や現地ガイドのコンテンツの提供、構成文化財の保存・活用に向けた整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 構成文化財を周遊するサイクルコースの整備や体験プログラムの実施など、ストーリーの魅力を伝える工夫がなされており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中学生への普及啓発事業や地元住民向けの学習体験等を通じて、認知拡大への取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 多言語での日本遺産に関するホームページや動画等の制作など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができています。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 構成文化財が広く点在し、また街道が生活道路となってしまう中で、地域の周遊を促進するコンテンツの整備や地域間の連携が図られ、ストーリーの魅力を発信しようという取組ができており、評価できる。 ■ 大学と連携した行動指針の策定によるストーリーの深化や展示会の開催、民間事業者と連携した取組の促進など、3年間で取り組む事業についての方向性が示されており、評価できる。 ■ 行政主導の取組が主であり、民間事業者や市民の巻き込みが弱い。自立・自走に向けた組織体制の整備がなされることが望ましい。 ■ 文化財の保存・継承に留まらず、エリア全体の事業推進を図るべきであり、それに向けた予算を十分に確保することが望ましい。 ■ 古代に「伝来の道」として築かれ、中世には「経済の道」となり、近世には「信仰の道」となった。現代においては、例えば、「文化の道」としていくというような長期ビジョンと事業計画について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMO、観光協会、商工団体、ガイド団体等の多様な民間団体や、包括連携協定を締結した大学と連携体制を築こうとしている点について、評価できる。 ■ 体制が整備され、各市町村内での個別事業の成果・ノウハウを他市町に共有・展開していくなど、連携に向けた調整・実行が期待される。 ■ 自立・自走に向けてマネタイズ可能な事業展開を行うにあたって、行政主導ではなく大学や民間事業者を巻き込んだ体制の構築に向けて、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 会長・副会長の1年毎の持ち回りでは、ノウハウ蓄積が図られないのではないか。各自治体においては異動もあり、地域プロデューサーや中核メンバーの設置について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 街道全体を活かすために、それぞれの拠点整備等に向けて、事業費の確保も含め、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ ウォーキングイベントやサイクルツーリズムコンテンツ等といった個々の観光事業化が見られる点については評価できる。 ■ 各地域がリーダーシップを発揮し、実質的に連携することにより、全体としての相乗効果を生み出し、ストーリーが生きるといった取組及び計画がなされることが望ましい。 ■ 自立・自走に向けた経済効果に関する目標の設定や、寄附等による財源確保の見通しの策定など、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 「竹内街道・横大路まつり」の開催だけでなく、未来の街道を創造していくため、事業の更なる検討・具体化が望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み客数」について、目標を達成しておらず、豪雨被害や新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるものの、それ以前の目標値を達成していない点について、やむを得ない理由等が十分示されていない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「「兵庫のゆたかさ指標」における、中播磨、但馬地域の「お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合」の平均」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「クラウドファンディングを活用した運用資金の確保」について、実施していなかったものの、「銀の馬車道」、「鉱石の道」関連商品の開発数は目標を達成しており、全体として概ね概ね目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響といった、やむを得ない理由も確認されたものの、これらの理由が生じる以前も目標を達成していない等、全体として目標を達成していない。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産に関係する団体数や個人数が一定程度あることなど、組織整備に係る土台が整備されているほか、部会の組織化、県内の他の日本遺産との連携を図るためのネットワーク構築など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 日本遺産地域への来訪者割合や認知度が一定程度あり、長期計画や戦略策定やマーケティング調査の実施を踏まえたサイクルツーリズム等の観光推進のための戦略を策定しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーとしての構成団体、地域プレイヤーとなるガイド人材が一定数存在するほか、ガイド養成講座やインバウンド対応研修の実施など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 多言語による解説看板・案内看板の設置や施設・展示物の整備、構成文化財及び周辺の改修・整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 民間事業者や地域と連携したストーリーに関する特別な体験の提供や日本遺産関連商品の開発、サイクリングツアー等の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中学校への学習教材の提供や学校に対する郷土学習の支援、高校生を対象としたワークショップ、シンポジウムの実施、食文化のブランド構築など様々な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 日本遺産のホームページのアクセス数やSNS等の更新回数、フォロワー数が一定程度あるほか、ターゲットを意識した情報の各種発信に取り組んでおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 計画されている事業は適切であるが、独自性を出していくことが望まれる。ブランド化についてはこれまでの6年間において実施すべき内容であると考えられる。 ■ どのターゲットにどのような手法でストーリーを伝えていくかの戦略が求められる。 ■ 「資源大国日本の記憶」を観光資源とするための多様な取組が計画されている。構成文化財の多彩な「見える化」や環境整備、シビックプライドの形成、内外の人々との交流、関連商品の開発・販売などの方策が示されている。 ■ 3つの柱を立て、ビジョン実現に向けて、世界遺産との連携、日本遺産関連コンテンツ・商品の更なる造成など、具体的な取組が考えられている。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 構成自治体だけでなく、商工会、観光協会、交通事業者、新聞社、金融機関等との連携体制が構築できている。 ■ 小中高校生らの参加による地域文化の継承活動がよく計画されている。また、ストーリーに関連付けた商品・サービスの販売についても、今後も順調に伸びていく計画が組まれている。 ■ 事業収入を得る仕組みに具体性がなく、事業費は自治体頼みの段階にある。自立・自走に向けた体制整備が望まれる。 ■ 構成団体において文化財・観光拠点の整備が均等に進んでいることは評価できる。実体を伴う産業遺産である強みを生かした観光コンテンツの創出を引き続き継続してほしい。また、そのための組織体制となっているかを検証する仕組みが必要。
総合評価	■ きめ細かにビジョンが設定されており、日本遺産というブランドを上手く利用した今後の施策に期待したい。 ■ 沿線地域の活動は活発である一方、全体を総合的にまとめていくことが望まれる。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「市政世論調査「観光地としての魅力（市民の郷土（文化財等）への愛着）」の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「地元事業者等で開発された日本遺産関連商品作成数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価案	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協議会の定期的な開催や関係団体との意見交換など、基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 体験型商品の開発やワーケーションモデルの創出など、状況に合わせた柔軟な対応を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 日本遺産ガイド養成研修や日本遺産サポーター養成講座など人材育成のための施策の実施とともに、地域プレイヤーについても一定程度存在しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 案内板・解説板やビューポイント看板の設置、多言語化対応、コミュニティセンターのパネル展示など、日本遺産のストーリーを伝えるための基礎的な整備が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 旅行商品の開発や体験プログラム、周遊モデルルートの構築など、地域全体を観光地とするための取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中高生の学習体験の数や民間主導のイベント数が一定程度あることなど、普及啓発に係る基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトのページビュー数やフォトコンテストの投稿数が一定程度あるとともに、雑誌の特集記事の制作など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 各種イベントを契機とした集客促進だけでなく、新たなガイドンスセンターの設置を除けば、日本遺産構成文化財への集客数を増やしていくための戦略が少し弱い点のため、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ インバウンドや企業などの新たな客層に向けた魅力の発信を行うため、コワーキングスペースの設置や、国内外含めた観光客や新たな交流市場の開拓等の取組を考えている点が評価できる。地域一丸となってプロジェクトを進めていくことを期待したい。 ■ ビジョンについて、県・市の一般的な和歌の浦の位置付けに終始しており、「絶景の宝庫」として、ストーリーを構成する多彩な文化財を活かす方策について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMOや観光協会、商工会議所、文化団体により体制が構成され、大学や旅行会社、体験事業者等とも連携する計画となっており、各団体の役割も明確になっている点が評価できる。 ■ 組織における自立・自走の仕組みが不明確であり、特に日本遺産の事業推進に必要な予算が自治体頼みとなっているため、民間事業者の巻き込み等について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 大学との連携が人材の育成・確保において重要であり、単なる連携だけではなく、協議会にメンバーとして参画してもらうなど、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ 商工会議所や大学など、産学官を効果的に連携させながら施策を実施していく体制を整えるため、民間事業者の巻き込みにより柔軟かつ機動力のある体制となることを期待したい。 ■ 大都市圏に近いという強みを活かした戦略に基づき、自立・自走に向けた誘客について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 和歌の浦が有する本質的価値を踏まえ、重点的に実施する事業の予算・体制の明確化について、更なる検討・具体化が望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前においても、目標を達成していると言えない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「アンケート調査における「地域の文化に愛着を感じる」の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産の活動への寄付額の上昇率」について、目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「日本遺産を訪れる観光ツアーの催行数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 協議会との関係団体数や日本遺産に関連するふるさと納税が一定程度あるなど、自立・自走に向けた組織体制が整えられており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 町の行政計画や文化財保存活用地域計画への位置付けにより各種取組を推進するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ ガイド育成のための講座の開催、地域おこし協力隊の活用など地域プレイヤーの確保・育成を着実に取り組むなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 構成文化財を活用したストーリーを伝えるコンテンツの整備や、構成文化財の改修による飲食・物販施設へのリニューアルなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 構成文化財の施設での体験や民間事業者の工場見学、ガイド協会によるガイドツアー商品の造成など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 中学生対象の出前講座や、民間事業者と連携した小学生向けの体験授業の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ Webサイトの閲覧者数やSNSの投稿数が一定程度あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 重伝建地区を含むまちづくりについてはある程度方向性も見えているものの、これらの活用、特に民間事業者の参入を呼び込む施策を明確にすることが望ましい。 ■ 歴史的資産の景観整備やWi-Fi等の観光振興に係る整備だけでなく、ガイドツアーや体験コンテンツの充実、ふるさと納税の返礼品の充実など、情報発信とともに施設整備に充てていく計画となっており、取り組む事業について方向性が示されている点が評価できる。 ■ 課題を「民間事業者などとの連携強化」と捉え、民間事業者との旅行商品の開発や、体験商品の開発、店頭での日本遺産を体感できるサービスの施策等が示されているものの、情報の共有や情報発信の不足解消の方途について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 体験ツアーやコンテンツ造成といった狭義の観光施策だけでは十分な効果は期待できないことから、関連企業の主体性を明確にし、民間企業の参画による物産も含めた総合的な収益事業化の戦略について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 行政が中心となり、商工会、観光協会、金融機関、文化資源関係者、交通事業者、隣接する日本遺産地域等と連携する体制が構築できている点が評価できる。
総合評価	■ 文化財の保存と活用は対立するものではないということに留意は必要であるが、保存を主とした取組から地域振興、観光振興へと発展させていく考え方が示されている点は評価できる。 ■ 行政主導の体制からまだ脱却できておらず、今後の民間事業者等の参画を促す戦略や仕組みづくりなど、具体的な事業構築について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ これまでの取組を振り返った上で新たな取組が考えられており、日本遺産を活かした施策の実施が期待されるものの、例えば、醤油を入口にした「料理（食文化）の発信」などに力を入れることも考えられる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人宿泊客延べ人数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、概ね目標を達成できている。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「住民意識調査の「歴史資源や文化財の保護、活用について満足している」割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「地元および市外業者・団体の協力団体数」について、目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 新型コロナウイルス感染症の影響といった、やむを得ない理由も確認されたものの、これらの理由が生じる以前も目標を達成していない等、全体として目標を達成していない。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 民間を中心とした協議会組織への移行により、民間の視点による事業計画の立案や事業実施を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 民間企業による商品開発を実施するなど地域コンセプトの浸透を図るための取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーや地域プレイヤーが一定数おり、ガイドの養成講座、サービス業従事者向けの研修会の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ ビジターセンターの整備、多言語対応誘導サイン・解説板の整備等を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ オープントップバスの運行や、神社でのコンサートなど、地域の観光資源を活かしたアクティビティを工夫して考えられており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 大学や商工会への体験学習など、日本遺産をテーマとした体験学習を行った人数が一定数いるほか、日本遺産の認知度が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページやSNS等を通じた多言語での情報発信は行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域課題に対する認識とこれを踏まえた戦略とビジョンが明確に示されているとともに、ふるさと納税、広告収入等の新たな収入の確保を検討するなど、持続的な取組の実施に期待ができ、評価できる。 ■ 出雲大社と関連させた観光、住民の認知度の高さや民間事業者の参画などがうまく機能しているほか、神楽公演、エリアの拡大、二次交通の脆弱さを補うバスツアーなど、民間事業も活性化しており、評価できる。 ■ 「日本遺産ブランドを活用した施策の地域的広がり」を課題とし、出雲大社だけではなく周囲の地域も盛り上げるため、「インバウンド向けのエリアマップの整備」や「観光ルートの整備」等を行おうとしている。また、幅広い世代の住民がガイドとして地域の魅力を語れるよう、育成しようとしている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ これまでの行政中心の運営体制を民間主導の体制へと移管し、民間事業者が自らデータ分析に基づくマーケティングを行い収益を上げていく仕組みを目指すことは、6年間の事業の発展型として評価できる。 ■ 若手プレイヤーの参画なども含め、「地域の総力戦で挑む」官民連携の組織化が図られている点が評価できる。 ■ インバウンド誘客においては、単に多言語化対応するだけでなく、インバウンド客が日本文化を体感して満足できる食の提供や土産物の開発など、多方面での取組を行うことが望ましい。
総合評価	■ ビジョンがしっかりと設定されており、ガイド育成の強化や若手プレイヤーの参加など、幅広い世代を巻き込みながら日本遺産を盛り上げようとしている点が評価できる。 ■ 地域プロデューサーを確保し、計画の立案段階から参画してもらうとともに、具体的な手法、実施内容の深掘りを行っていくことが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」など、「外国人宿泊者数」以外の指標について、いずれも目標を達成しておらず、2018年の西日本豪雨及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるものの、それ以前の目標を達成していない点について、やむを得ない理由等が十分に示されていない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、いずれも目標を達成してない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響といった、やむを得ない理由も確認されたものの、これらの理由が生じる以前も目標を達成していない等、全体として目標を達成していない。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	日本遺産の魅力発信に自主的に参画した高校が一定数あるほか、他の日本遺産認定地域との広域連携や事業に関する意見交換が行われるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(2) 戦略立案	個別評価	可	地域の計画への位置付けや、マーケティング調査を踏まえた戦略の検討など、日本遺産に関するブランディングについて取り組んでおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(3) 人材育成	個別評価	可	ガイド育成に向けた基礎的な研修やマニュアルの作成を行っているほか、高校生の地域研究や活動プログラム等への支援、住民向けの講座の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(4) 整備	個別評価	可	多言語による構成文化財の解説看板・案内看板の設置、日本遺産を紹介する拠点施設の整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(5) 観光事業化	個別評価	可	日本遺産の拠点となる施設となる施設の入館者数が一定程度あるほか、体験コンテンツの提供やオリジナル商品の制作・販売など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(6) 普及啓発	個別評価	可	シンポジウムやワークショップの開催、「日本遺産まんが」や「日本遺産かるた」の作成をはじめ、日本遺産ストーリーを身近に感じてもらえるような工夫を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	ホームページや動画、サイクリングマップやモデルコース等の整備を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができています。
総合評価		可	全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできています。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 過去6年間の成果と課題を踏まえた適切なビジョン・計画になっており、組織体制も全庁的なバックアップ組織のほかに民間を取り込んだ「推進室」を設け、事業化の核としている点が評価できる。 ■ これまでの事業のPDCAに基づいた改善の視点が散りばめられており、プロモーションを意識した取組として、デジタル技術を導入したり、マーケティング視点での利用を計画している点も評価できる。 ■ 倉敷のまちづくりは半世紀を超える歴史を誇り、様々な施策がこれまで展開されてきた。その蓄積を基に、更なる飛躍に日本遺産ブランドをどうつなげていくか、戦略立案、人材育成、観光事業化などで更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ストーリーを中心である「一輪の綿花」はどこにあるのか、ストーリー体験ができるような事業について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ プロモーションの強化とともに、事業の収益化に向けた計画の更なる検討・具体化が望ましい。 ■ DMOや交通事業者などの観光関係者や文化関係者、商工関係者が連携・協働する体制となっている点が評価できる一方、事業内容を見る限り、民間事業者との更なる連携が望ましい。
総合評価	■ 日本遺産の推進について、全庁的な事務局を設置したモデル的な事例であり、計画的な推進が期待される。 ■ 日本遺産に対する歴史・文化の理解にとどまらず、歴史を伝えることで地域産業の価値が上がる。個別の文化資源の磨き上げについて、更なる検討・具体化が望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」、「日本遺産のためのふるさと納税額」「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」等について、概ね目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 「六古窯」で連携することで、民間企業とのコラボレーションを実現させるなど、多様な団体との協業が行えている。また、全都市の連携を強化するための会議等も定期的に行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 各産地の事業者への調査やブランディング事業、構成自治体の総合計画への位置付けなど、六古窯ブランドの浸透に向けた戦略立案が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ ガイド育成やワークショップの実施など、各地で基礎的な取組が実施されているほか、つくり手の確保に向けた長期的な目線での施策も実施しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 観光客の理解の深まりに関する満足度が一定程度あるとともに、拠点施設の設置など、ストーリーを伝えるための取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 構成文化財等を巡るツアーの実施、拠点施設等をつなぐシャトルバスの運行、各産地の特徴を表したオリジナルグッズの作成・販売など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 学校での体験学習やつくり手との交流機会の提供など、工夫した取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ PV数が一定数あり、定期的な情報発信が行われているほか、ホームページや映像等を活用した基礎的な情報発信が実施できており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 日本六古窯サミットの宣言文を軸に、日本を象徴する陶芸文化と六産地の新たな方向性がビジョンとしてよく示されている。六古窯は産業文化であり、窯業事業者が技術・文化を承継しながら、やきものに現代社会にあわせた新たな価値を付加し、時代に合わせた伝統あるやきものを作り上げていくという方向性は評価できる。 ■ 産地間ネットワークによって、どのように相乗効果が創出されるのかが重要。2025年に迫る大阪・関西万博における世界への発信が好機となるため、活用を更に具体化することが望ましい。 ■ それぞれ著名な六古窯を、相乗作用によりレベルアップし、地域活性化に資するためには、産地間の各種ネットワークが必須となる。また、学芸員をはじめとした、歴史・文化を深化していく人材育成等に向けた検討が望ましい。 ■ 6市町による共通ビジョンが設定され、それに応じた取組が明示されており、評価できるものの、インバウンドに向けた外国人観光客誘致について、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 構成自治体だけでなく、陶器生産関係団体、商工会、観光協会などで構成されており、特に、民間産地事業者を中心に共同で事業に取り組む産地間ネットワークや学芸員ネットワークを構築するなど、産地を越えて協働する体制となっているところが評価できる。 ■ 協議会がシリアル型としてネットワークを構築していくことが重要であるが、その運営や事業予算が各自治体頼みの体制となっており、自立・自走に向けた組織として、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ インバウンドに向けた取組があまり触れられていないが、インバウンド客に刺さるストーリーの伝え方や発信を通してやきものの価値を世界に普及していく取組について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 6市町の連携を強めるための組織が整備されており、民間事業者等との事業連携も評価できる。
総合評価	■ 陶芸という日本文化を連携して高めていこうという視点が明確であり、評価できる。 ■ シリアル型として産地を超えたネットワーク、価値を創出する仕組みの構築が求められる。6市町が各地の魅力を研ぎ澄ますと同時に、互いの施策を連携し合うことで、ブランド価値を更に高めてほしい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「住民意識調査の「地域の文化に愛着を感じる」割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「地域で提供される日本遺産を絡めた体験プログラムの数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 「ゆずFeS」を起点として協力者を集めたり、地域プロデューサーの選任や産・学・官・民の連携体制の構築など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 多様な人材とともに、ブランディングや長期戦略のためのPDCAサイクルを回しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーや地域プレイヤーが一定数存在し、ガイドの養成講座の実施、体験商品開発のためのビジネス講座の開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ ストーリー及びサブストーリーの認知拡大のためのゆずロードミュージアムの開設や、ゆず料理の認知度強化など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 体験プログラムの提供や民間事業者における旅行商品の販売のほか、ゆずを活かした商品づくりや「一店一品」運動を推進するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 教育機関と連携した授業の実施、継続的なシンポジウムの実施など、地域の若い世代にも日本遺産の魅力を伝える施策が行われているおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトにおける情報発信及び継続的なSNSの運用が行われている等、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 林業（鉄道）の衰退から柚子という新しい産業を創出した歴史を踏まえた新しい取組として、日本遺産をうまく活かしている。収益事業を行う中で、交流人口（インバウンドを含む）を拡大していく段階であり、今後の展開の方向性がよく示されていて、評価できる。 ■ ビジョンの実現に向けて、しっかりとした分析がなされている。拠点施設について民間事業者と大学とが共同で整備を行うとともに、ターゲット毎に旅行商品を洗練化させ販売するほか、人材発掘も含め、“稼ぐ仕組み”の確立に向けた事業も計画されている。3年間で取り組む事業について、明確に方向性が示されており、評価できる。 ■ 日本遺産「ゆずと林鉄」を前面に押し出した地域の活性化を真剣に考え、実施しようとしている。Step1からStep4までの段階を設定し、それぞれの過程での具体策も企画され、その方向性は明瞭であり、評価できる。 ■ 地域全体の課題となっている人口減少の解決に向けて、日本遺産を活かしながら関係人口の創出・拡大・深化に取り組むというビジョンがわかりやすく魅力的である。また、その実現に向けたステップ毎の各施策も具体的に考えられており、評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 日本遺産推進室を設置して専任の担当を配置するとともに、関係する団体が連携することで効果的な実施体制を構築している。自走のための収益組織の必要性を認識した上で別組織の立ち上げも準備しており、今後の組織運営についても発展が期待でき、評価できる。 ■ 日本遺産推進室を中軸に、観光や宿泊等の民間に、農協や大学や住民などが参画したまとまりのある実施体制になっている。定例の各種会議を含めた担当者の連携も十分なされており、評価できる。 ■ 協議会を中心とした具体的な連携施策が検討されている。また、民間事業者や学校等との連携も強化されており、評価できる。 ■ 行政が運営する協議会とは別に、事業の自走のための新たな事業体の設立について、具体的に検討が進められており、評価できる。
総合評価	■ 事業を着実に推進しようとする姿勢が見られるほか、マーケティング視点での戦略が練られており、ターゲットを明確にした取組が企画されており、評価できる。 ■ 段階的な戦略立案やターゲットの絞り込みなど、取組の具体性があり、マンパワーや財政規模が限られる中、日本遺産を中核にした地域づくりのモデルになることが期待できる。 ■ 一年毎に計画を見直ししながら、より実効性の高い計画に磨き上げていくことが期待される。
評価結果	認定継続（重点支援地域）

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していないものの、「宿泊者」については、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、目標を達成しており、全体として概ね目標を達成できている。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「アンケート調査による「地域の文化に愛着を感じる」の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「公式テキスト（広告）、ホームページ（バナー広告）等の広告協賛やイベントへの協賛企業数」及び「公式テキスト（広告）、ホームページ（バナー広告）等の広告協賛やイベントへの協賛金額」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 大学生や民間事業者など、様々な立場の人を巻き込んだ組織づくりを行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 関門海峡の知名度や観光資源は一定程度あるほか、戦略立案に連動したマーケティング調査を進めており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ ガイド講座の実施や、北九州市と下関市の大学との連携、学生が主体となるイベント実施など、継続した取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 案内板・説明板の整備など、観光地として地域の魅力を伝えるための基礎的な整備が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ ストーリーを体験するためのツアー造成や、日本遺産関連商品の開発など、観光事業化の基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産活用に係るシンポジウムや住民向け講座、学校における郷土学習の実施、また、大学生を巻き込むことで若者に自分事として日本遺産を伝えるための仕掛けづくりが行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 公式ホームページやSNSの整備、若者をターゲットとしたプロモーションの実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 目標値の設定が少し消極的であるものの、解説やホームページの多言語化、サブストーリーの発掘、新たな周遊ルートの開発、交通事業者等と連携した旅行商品の造成など、3年間で取り組む事業について、一定の方向性は示されており、評価できる。 ■ 大学生の力を借りるなど工夫した取組が考えられているが、ビジョンや施策内容が抽象的で伝わりにくい。ため、関係者を巻き込むためにはブラッシュアップが必要であり、更なる検討・具体化が望まれる。 ■ 日本遺産ブランドの活用が既存の一般的な観光事業の枠に留まっており、日本遺産のストーリーで伝えるべきことは何か、ビジョン及び事業について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ビジョンは一定描けているものの、事業内容に関して明確なエリア設定とコンセプト設定を行うことが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 日本遺産の活用による経済効果を目指す一方、商品数、旅行商品数等の目標値が低く、民間の活力を活かすという方向性が明確になっているとは言えない。両地域の歴史・文化的個性を明確にした上で、棲み分けて連携していくといった方向性を検討することが望ましい。 ■ 協議会の会長が学者である点は、他の日本遺産と比較して特徴的である。また、大学生が委員を務めるなど、若者視点を取り入れている点は評価できる。 ■ 観光協会、交通事業者、旅行会社等の民間事業者と連携する体制となっているほか、金融機関や大学等も含め、地域の多様な主体と連携する体制である点は評価できる。 ■ 組織の自立・自走が意識されているものの、まだ具体的ではなく、更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ 関門海峡の知名度や観光資源は既に一定のレベルにあるため、日本遺産を活かして地域産業の価値を上げていくことが期待される。 ■ 観光や文化以外の面での両市の連携は歴史があるが、それぞれの歴史面・文化面の相違から、これらをどのように括り、事業として実質的な連携につなげていくのかという戦略について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 構成文化財である近代建築の活用が重要であり、活用に向けた具体的な計画を立案していくことが望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前において、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「4市町の住民意識調査での「地域の文化に愛着を感じる」の割合」及び「4市町の小・中学生や住民に行う意識調査での「日本遺産（二千年の米づくり）を知っている」割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産の活動へのふるさと納税額の上昇率」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産への協力団体が一定数いるほか、ふるさと納税の実施といった自主財源を獲得するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 長期的構想への位置付けや、国内外を対象としたマーケティング調査が実施されるなど、基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ ガイドなど地域プレイヤーの育成とともに、菊池川流域の飲食店舗が参加した「ヲムスビプロジェクト」におけるワークショップの開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ ストーリーを体験するための説明板・案内板の設置、物産館内での日本遺産コーナーの設置など、基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ ストーリーを体験するためのモデルルートの造成や民間団体とのサイクリングイベントの実施、周辺飲食店でのオリジナルメニューの開発など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 小中学生への出前講座や現地案内等の体験学習、高校生の食メニュー開発など普及啓発が図られており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 定期的な情報発信を行うためのプロセスの整備、各種メディアの活用など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 課題を「米どころとしての認知拡大」、「地域住民へのストーリーの浸透」、「民間事業者との協力」と設定している点は明確であり評価できる。一方で、ストーリー・資源の活用という点で、これらを具体化する事業面での対応について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ ビジョン、課題、方針、取組は明確であるとともに、大学や民間事業者と連携した持続的な取組が検討されている点が評価できる。 ■ 古代の米作り、その後の日本列島民の歴史における展開をどのように地元、来訪者に伝えていくか、具体的な内容が不明確である。モデルツアーの検証を行い、どのようにガイド育成につなげていくのか、更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 組織としては適切な体制が維持されているものの、現時点では自立・自走できる状況には至っておらず、民間事業者を巻き込んだ組織運営のため、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 米づくりという点で、全国の他地域との差別化や収益事業化に向けた戦略について、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 大学との協力や、宿泊施設、交通事業者など民間事業者との連携方法が検討されており、課題解決に向けた組織整備を行おうとしている点が評価できる。 ■ 地域プロデューサーの役割を担う人材の育成も目指しており、協議会を中心とした広域の組織の強化が図られている点が評価できる。
総合評価	■ 地域の状況・課題に応じた計画になっている点が評価できる。 ■ 全国的な「米どころ」との差別化という日本遺産のストーリーそのものの真価が問われている。他地域と比較してどの程度認知されているのかを常にモニタリングしながらPDCAサイクルを回していけるよう、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 持続的な活動のため、好循環の観点からの取組について、更なる検討・具体化が望ましい。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していないものの、「宿泊者数」については、平成29年7月九州北部豪雨や新型コロナウイルス感染症の影響のあった年度を除き、目標を達成しており、全体として概ね目標を達成していると言える。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、一部調査を実施していないことから、目標の達成状況が把握できない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成していないものの、「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」については、目標を達成しており、全体として概ね目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 「やばはく」というイベントを活用した地域プレイヤーの巻き込み、ブランディングチームを組織し、Webサイトやロゴ制作を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 観光客や事業者から意見を集約し、戦略のブラッシュアップを行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 「やばはく」を通じた地域プレイヤーの育成が一定程度できており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 耶馬溪風物館を日本遺産センターとして位置付け、ガイドンスエリアを設けるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 地域プレイヤーを中心とした受入体制を構築し、民間主体の体験プログラムを造成するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ こどもガイド育成事業や高校生との連携事業、日本遺産検定など基礎的な取組が行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ WebサイトやSNS、ポスター、チラシなど様々なツールを活用した情報発信がされており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

日本遺産を通じた地域活性化計画

	評価理由
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 拠点施設の整備・機能強化を図るとともに、ストーリーと連携させた地域文化を民間プレイヤーが伝える体験型観光プログラムの造成・拡充を行うなど、ビジョンの実現に向けた方策が明確であることは評価できる。 ■ 今後の課題を「民間の役割拡大」、「滞在時間の延長」、「大人への普及啓発の強化」と設定しており、その解決に向けて、「周遊のための拠点整備」や「体験プログラムの造成」などの施策を具体的に検討できていることは評価できる。 ■ 「やばはく」というオンパク手法が、名勝地耶馬溪の新たな魅力づくりにどのように寄与するのかという点が明確とは言えない。景勝以外の地域の新しい魅力をどう創造するのか、ビジョンの更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 自立・自走、好循環についての更なる検討・具体化が望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 日本遺産事業全体について助言・監修を行うアドバイザーの設置とともに、3つのワーキンググループを組織し、地域プロデューサーの調整の下、観光協会、商工会、民間事業者、地域内のデザイナー、ライター等の様々な主体と連携できる体制となっていることは評価できる。 ■ 自走に向けて、今後の財源確保についての検討も一定程度進められていることは評価できる。 ■ 地域を再編成する視点と手法が重要。地域プロデューサーを核に、しっかりとした戦略と事業構築が不可欠であり、更なる検討・具体化が望ましい。 ■ 全方位的にならずにターゲットを絞って具体的な取組を進めていくため、戦略の更なる検討・具体化が望ましい。
総合評価	■ これまでの取組を整理し、人材の発掘、周遊の仕掛け、地域への普及など、3つの優先課題を設定し、それを実現していくためにワーキンググループによる効果的な方策等を明らかにしていることは評価できる。 ■ 宿泊施設、移動手段の充実や民間人材を巻き込んだ「稼ぐ」観点での更なる検討・具体化が望ましい。
評価結果	認定継続